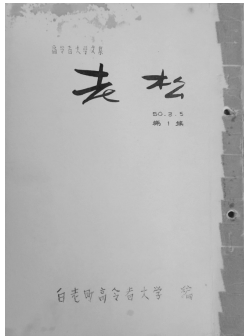


高齢者大学創立50周年

～「老松」で紡ぐ学生の声～

第1号は昭和50年3月に発行

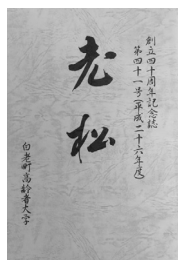


大学総長や学長のあいさつ文に続き、「私の履歴書」と題して学生が出生からの自身の歩みや大学活動での思い出などを、字数や体裁にこだわらずにつづっています。

【掲載文】
(前略) 又、上水道見学の折、お土産をいただきまして、家につきあげてみると真白いふきんにかかれた”水道はみんなのものです。大切に”とかいてありました。私はその日から食卓にこのふきんをおき、家の者達に全ての面でものを大切にと言っております。

節目には記念号を発行

大学の節目となる創立10年、15年、30年、40年には、それぞれ記念企画を盛り込んだ記念号を発行しています。下記は、10周年記念号の一文です。



【掲載文】
(後略) 私は高齢者大学に昭和五十二年に入学して早や六年が過ぎ去ろうとしています(中略)一年勉強して修了証書と共に、休まなければ精勤賞を頂くのです。精勤賞を頂いた時、私は此の精勤賞を何枚いただけるかに、挑戦してみようと思いましたがとても楽しみです。(後略)

高齢者大学では、開校初年度から活動の記録となる大学文集「老松」を毎年発行してきました。積み重ねてきた冊数は、50冊(号)になりました。

内容は時代とともに変遷してきました。共通するのはその時代時代に行われていた活動の様子や、学生たちの声がつづられていることです。手元にある5冊の老松に掲載されている学生の声を抜粋してご紹介したいと思います。(いずれも一部のみ抜粋、原文のまま)

老松あれこれ

- ◆業者印刷・製本によって発行されたのは第6号からで、それまでは自分たちが印刷・製本しての発行でした。
- ◆第3号から第13号までの題字は、当時の山手町長が書かれています。
- ◆第8号から20号には、「主張・体験発表」という企画がありました。「主張大会」という学習活動の原稿が掲載されています。
- ◆第20号から28号までには、「主張・体験発表」に替わって「随想・旅行記」という企画があります。下記は第15号からの抜粋です。

【掲載文】
(前略) 今の母親達は、勉強ばかりで心を育てることを知らない、心を育てることは、口先ではなく親が自ら厳しく、子どもの手本となるようにならなければならないと考えます。昔から可愛い子には旅をさせろ、と言われますが、厳しく躰ける気持ちをもち、命の尊さ、物の善悪、人間のふれあい、健康の大切さ、としっかり教えていくことでもあります。このことが、子どもから見ると魅力ある親になり、尊敬されるのではないのでしょうか。(後略)